

2025.6.11

報道関係各位

アストンマーティン ジャパン



アストンマーティン、ル・マン 24 時間レースでの 運命の瞬間に向け準備万端

- アストンマーティン Valkyrie、アストンマーティン THOR チームと共にサルト・サーキットにおける 24 時間レースデビューに臨む
- ハイパーカーValkyrie が狙うのは、英国のラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドであるアストンマーティンにとって 1959 年以来となる総合優勝
- Valkyrie はル・マン 24 時間レースで唯一ロードカーベースのハイパーカー
- アストンマーティン THOR チームは、ル・マンで戦ってきた英国車の歴史を称えるユニオンジャックの特別仕様カラーリング
- Valkyrie007 号車はハリー・ティンクネル、トム・ギャンプル、ロス・ガンの英国勢
- Valkyrie009 号車は 3 度 FIA WEC チャンピオンに輝くマルコ・ソーレンセンにアレックス・リベラスとロマン・デ・アンジェリス
- Valkyrie は 2025 年に IMSA と世界耐久選手権（WEC）という 2 つの世界最高峰スポーツカーシリーズの両方で戦う唯一のハイパーカー



2025年6月10日、ル・マン（フランス）

今週末、アストンマーティンが世界で最も有名な耐久レース、ル・マン24時間レース第93回大会の最高峰クラスに復帰し、レースの歴史に名を刻みます。まさにこのために生まれてきた驚異のハイパーカーValkyrieがグリッドに並び、名高いウィング・バッジとともに1959年以来の総合優勝を目指します。

ル・マンの歴史の記念碑的な出来事となる今回の出場は、英国のウルトラ・ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドであるアストンマーティンの競技史においても極めて重要な意味を持っています。圧倒的な美しさを放つグリーンの特別仕様カラーリングをまとったアストンマーティンTHORチームの2台のハイパーカーが、数多い伝説を生み出してきたピットレーンから初めてサルト・サーキットに出陣するとき、ロードカーベースの純粋なレーシングカーであるValkyrieがようやくその運命を全うする第一歩を踏み出します。

アストンマーティン・ラゴンダの最高経営責任者（CEO）エイドリアン・ホールマークは次のように述べています。「Valkyrieのル・マン24時間レースへのデビューは、この車両の開発とアストンマーティンの競技史の両方にとって一つの大きなマイルストーンとなります。ル・マンは耐久レースの頂点にあり、単独のレースとしてはおそらく地球上で最も有名なレースです。そのハイパークラスにアストンマーティンが出場するのは当然のことであり、この素晴らしいレースを見に訪れる大勢のファンや、世界中で観戦する何百万もの人々を沸かせることでしょう」

「スポーツファンは、かの有名なミュルサンヌ・ストレートの木々の間からValkyrieのV12エンジンが響いてくるのをずっと待ち望んできました。感情を揺さぶるこのサウンドが本来あるべき場所に戻ってくることができ、誇りに思っています。素晴らしいパートナーであるThe Heart of Racingとともに、これまでのすべての努力に値するパフォーマンスをValkyrieが発揮して皆様の期待に応えられるように、最大限尽くしてまいります」

エンジンカバーフィンのサイドにユニオンジャックがはためくカラーリングは、ル・マンで戦ってきた英国車の偉大な伝統に対する敬意を表すと同時に、名レースの最高峰クラスへのアストンマーティンの復帰を祝うものでもあります。今週、アストンマーティンはValkyrieのサーキット専用レース仕様限定版「Valkyrie LM」と、限定版のオーナーのみを対象とした、今日最高の一流耐久レースを体験できる完全没入型のドライバー能力開発プログラムも発表しています。

ワークスチームのThe Heart of Racing（THOR）の2台のValkyrieは、最高峰に位置するル・マン24時間レースを含めたFIA 世界耐久選手権（WEC）が2012年に開始されて以来、トップクラス（ハイパーカー）に出場するアストンマーティン初の「ル・マン・ハイパーカー」（LMH）です。

Valkyrieの出場で、耐久レースにおいては最古参組であり、11のタイトル獲得で最も成功を収めているマニファクチャラーの一つであるアストンマーティンが、世界最高峰のル・マン24時間レースにおいて66年前にキャロル・シェルビー（米国）とロイ・サルヴァドーリ（英国）がDBR1で達成して以来の総合優勝を狙うことになります。

このLMHバージョンのValkyrieは、アストンマーティンとTHORによってValkyrieの量産モデルをベースに開発され、WECの最高峰クラスで唯一、公道仕様のハイパーカーをベースにしています。また、ハイパーカー規則に従って製造されたマシンで唯一、WECとIMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権の両方に出場します。

シャシーはレース用に最適化したカーボンファイバー製で、標準仕様で最高回転数11,000rpm、最高出力は1,000bhpを超える、コスワース開発の驚異的な自然吸気6.5リッターV12エンジンのリーンバーン版を

搭載します。レース出場に際し、Valkyrieの血統において常に心臓部に鎮座するエンジンは500kw（680bhp）という出力制限規則を厳守するように調整されます。

ル・マンでは、アストンマーティンTHORチームは2月にルサイルで開催されたWEC開幕戦、カタル1812kmレースと同じドライバー3名体制に戻ります。

このためIMSAでValkyrieのドライバーを務め、IMSA GTD Pro優勝経験もあるロス・ガンが、2016年ヨーロッパ・ル・マン・シリーズ（ELMS）総合チャンピオンであり2020年ル・マンLMGTEカテゴリーでアストンマーティンに優勝をもたらしたハリー・ティンクネルと、耐久レースで頭角を現す新星トム・ギャンプルという007号車の英国勢の顔ぶれに再び加わります。ガンとギャンプルは2人合わせて5回のル・マン出場経験がありますが、2025年の今回はル・マンのトップクラス初参戦を果たすことになります。

009号車のValkyrieのドライバー3名も同じです。アストンマーティンで最も成功を収めているワークスドライバーのマルコ・ソーレンセン（デンマーク）は、アストンマーティンVantageでLMGTEクラス優勝を果たした2022年を含め、今回11回目のル・マン出場となります。今回もWEC GTチャンピオンに3度輝くソーレンセンと組むのは、WECとIMSA GTD Proで複数の勝利を収めているアレックス・リベラス（スペイン）で、さらにル・マン出場2回目の2022年IMSA GTDチャンピオンのロマン・デ・アンジェリス（カナダ）が再び加わります。

Valkyrieはデビュー以来、ル・マンまで合わせて10回のレースのうち9回を完走するという、優れた信頼性を記録しています。WECでは、009号車がカタルの10時間のデビュー戦を完走した後、アストンマーティンTHORチームはイモラ6時間レース（イタリア）、スパ・フランコルシャン6時間レース（ベルギー）と着実にデータ収集を続け、パフォーマンスを引き出してきました。スパ・フランコルシャンでは、ティンクネルとギャンプルの007号車が史上最強のWECハイパーカーと同一周回でフィニッシュし、ポイント獲得まであと一步に迫りました。

IMSAでは、Valkyrieはセブリング12時間のデビュー戦においてLMHレギュレーションで製造されたマシンとしては初めてのポイント獲得を達成したほか、北米でこれまで戦ったレースですべてトップ10入りを果たしています。

アストンマーティンTHORチーム代表のイアン・ジェームズは次のように述べています。「Valkyrieの特異性と、耐久レースにおける世界最高のマニュファクチャラーの確立された実績あるプログラムに比べて私たちがハイパーカーの新参者であることを考え、常に過度の期待はしないように気をつけてはいますが、毎回ターゲットを達成できています。Valkyrieのル・マン初出場では、2台のマシンが完走し、さらにポイントを獲得できたら、始まったばかりのプログラムとしては最高の結果だと思います。私たちはValkyrieのポテンシャルをまだほんの少ししか引き出せていませんが、レースごとにサーキットでもサーキット外でも改良を重ね、重要なデータをさらに収集して開発プロセスにフィードバックしています」

「Valkyrieにとって、ル・マンが最初の24時間レースであり、サルト・サーキットが他のサーキットにはないような独特の課題を突き付けてくることを肝に銘じなければなりません。私たちはこの先に何があるのかを認識した上で、レースに臨みます」

アストンマーティンの耐久レースの歴史は、ル・マンと切っても切り離せない関係にあります。ロバー

ト・バンフォードとライオネル・マーティンが創業してからわずか15年後の1928年には、ラ・サルトのレースにAM415「International」が2台出場しました。3年後、アウグストゥス・チェザーレ・ベルテッリとモーリス・ハーヴェイがInternationalで1.5リッタークラスに優勝し、初勝利を挙げました。1932年と1933年にもクラス優勝を果たしています。30年代にはUlsterがさらに2度の勝利を収め、第二次世界大戦前の時代、アストンマーティンはル・マンを代表するマニュファクチャラーのひとつとなっていました。

1940年から1948年、ヨーロッパが第二次世界大戦に見舞われる中でレースも中断されましたが、1949年に再開されるとアストンマーティンも参戦し、1950年代にかけて3リッタークラスを独占しました。1951年にはDB2が1位、2位、3位となり、6度クラス優勝をしています。この全盛期は、1959年のシェルビーとサルヴァドーリの輝かしい総合優勝で頂点を極めることになります。アストンマーティンが、レース界の伝説的なスターたちが集まることで知られるようになったのもこの頃です。アストンマーティンでル・マンを戦った数多くの名ドライバーには、ジム・クラーク、サー・スターリング・モス、ピーター・コリンズ、サー・ジャック・ブラバム、シェルビー、サルヴァドーリ、トニー・ブルックス、フィル・ヒル、サー・ジョン・サーティース、イネス・アイルランド、ポール・フレール、グラハム・ヒル、ブルース・マクラーレンなどが名を連ねます。

今世紀に入り、アストンマーティンは再び真の偉大なGTマニュファクチャラーのひとつとして台頭しています。2006年にレースに復帰してGT1クラスの表彰台を獲得すると、2007年にはダレン・ターナー、リカルド・リデル、デビッド・ブラバムが、強大なパワーを誇るV12を搭載したDBR9でコルベットの抑えて圧勝しました。アストンマーティンは、翌年も再び優勝を手にします。2012年にWEC時代が幕を開けると、アストンマーティンは近年の2022年を含め、Vantageで5回のクラス優勝を勝ち取ります。

Valkyrieは、アストンマーティンがル・マンに投入する、29台目のシャシーとエンジンの組み合わせになります。アストンマーティンにこれほどまで数多くの成功をもたらした、アストンマーティンのDNAがレースの本質そのものから作り出されていることを揺るぎなく証明し続けたサーキットは、ル・マンをおいてほかにはありません。

耐久モータースポーツ責任者のアダム・カーターは次のように述べています。「アストンマーティンはレースしたいという願いから生まれ、その本質は今日もそのDNAの中に残っています。Valkyrieはそのレース志向が究極的な形で表に現れたものだと言うことができるかもしれませんし、確かにValkyrieのルーツは世界を制する車両デザインにから得たインスピレーションにあります。ValkyrieのLMH版は既に多くのファンの心をつかんでいますが、その歩みはまだ始まったばかりです」

「この点を念頭に、ル・マン24時間レースのデビュー戦については現実的で厳しい予想をしています。2月にレースを始めてからかなり多くを学んできましたが、今回のレースでもシーズン後半に向けて重要なデータを集めることができると思います。とはいうものの、私たちはレースで戦うためにここに来ています。ファンのために最善を尽くし、WEC最大の舞台でWECにおけるシーズン初のポイントフィニッシュを目指して力を尽くすことを楽しみにしています」

ドライバーコメント

ロス・ガン、Valkyrie 007号車：「初のル・マンに臨むValkyrieプログラムに参加できることを光栄に思います。これまでもマシンをサーキットに出すのはとても楽しい経験でしたが、今回世界最大の舞台でレースをするというのは夢のような話です。レースの舞台裏はもちろんのこと、ル・マンまでのいくつかのレースでも、私たちはとても懸命に準備を進めてきました。私たちにとって焦点となるのはレースを完走することになると思います。初めてのル・マンでは、それがとても大きな成果になります。ル・マンまでに可能な限り数多くプログラムを実行しようと思っています。ル・マンのような場所は他にはないからです。結果を出すために力を尽くしますが、私たちにとってまず重要なのは完走することになります」

ハリー・ティンクネル、Valkyrie 007号車：「Valkyrieのル・マンでのデビューを本当に楽しみにしています。私たちはどんどん良くなっています。マシンを走らせてデータを集めるたびに、それは改良へとつながっていきます。チームの士気は、これまで経験した中で最高に高く、非常に過酷なレースとなるル・マンでは、まさにそれが必要になります。レースがまだ始まってもないのに目が覚めたときに疲れているような気持ちになりがちなので、チームで仲間と一緒に命がけで戦っていると感じられるのはとても助かります。最初にテルトル・ルージュを出て、V12が最高のサウンドを響かせる中でミュルサンヌ・ストレートを爆走するのは、現実離れた瞬間になると思います。プログラム開始時から関わっているので、ようやくここまで来たというのはすごい感じがします。英国勢が多いので、ホームレースのような感じします。シルバーストン開催が復活するまでは、これが一番それに近いものになるでしょう」

トム・ギャンプル、Valkyrie 007号車：「もうすぐ今年最大のレースです！チームはシーズン中ずっと、これまで信じられないほど一生懸命にがんばってきました。Valkyrieのル・マン初参戦に参加できることが待ち切れない思いです。今回、自分にとってもトップクラスでのデビューになることを光栄に 생각합니다。今回の過酷なレースで達成したいことに関しては、私たちは現実的に考えていると思います。フィニッシュラインを超えるだけでも、このマシンでの初めての24時間レースとしては大きな成功だと思います！」

アレックス・リベラ、Valkyrie 009号車：「これがチームと自分にとって何を意味するのか、言葉にするのも難しいところです。アストンマーティンTHORチームの代表として、Valkyrieのような個性的で素晴らしいマシンでル・マンに出場する光栄に浴することができなんて想像したこともありませんでした。今後ずっと大切な思い出となっていくと思いますし、このプログラムに参加できたことをとてもうれしく思っています。ル・マンに到着し、全力を尽くすことが待ち切れません」

マルコ・ソーレンセン、Valkyrie 009号車：「Valkyrieにとっては明らかに初めてのル・マンになりますし、ファンに初めて見てもらえることにとてもわくわくしています。長い間、このためにがんばってきました。ル・マンは過酷な、伝説的なサーキットであり、週を通していろいろな面で何度も私たちに襲い掛かってくるでしょう。しかし、私たちはこれまでもやってきたことを続けていかなければなりません。つまり、一生懸命取り組み、このマシンについて学び続けていかなければならないのです。明らかに現時点での全力を発揮できるように、パワー全開で臨みます。最高のフィニッシュを決め、ファンがレースを通して観戦できるマシンとなるように、アストンマーティンTHORチームと一緒に戦うことを楽しみにしています」

ロマン・デ・アンジェリス、Valkyrie 009号車：「アストンマーティンValkyrieでの初めてのル・マン、そ

して私にとって初めてのル・マンのトップクラス出場を楽しみにしています。耐久レースを夢中に見て育った人にとって、特にドライバーの観点からは、これこそが頂点です。自分がこの立場になれるなんて想像もしなかったので、この大舞台に迎えることをとても感謝し、幸運だと思っています。アストンマーティンTHORチームは、素晴らしい人々の集まりで、その中には私のチームメイトも含まれていますWECのパドックに戻り、最大の舞台で戦うことを楽しみにしています。24時間のレースの結果を待ち切れない思いです」

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-RoueNjzEou>



Vantage、最高峰の耐久レースで 6度目のクラス制覇を目指す

- **Aston Martin Vantage が栄光の舞台に帰ってくる**
- **The Heart of Racing とともに失意の 2024 年のリベンジと復活を狙う**
- **Aston Martin が Racing Spirit of Léman チームでル・マン 24 時間デビュー**
- **マティア・ドルディが、ル・マン 24 時間、ニュルブルクリンク 24 時間、スパ 24 時間の 3 つの耐久レースに連続出場**
- **ドルディ、デレク・デボア、エドゥアルド・バリチェロの 3 人が Vantage をドライブして第 93 回ル・マン 24 時間レースに挑む**

Aston Martin の歴史で最も成功を収めたレーシングカー Vantage がル・マン 24 時間レースに帰ってきます。この週末、パートナーチームである The Heart of Racing (THOR) と Racing Spirit of Lemman (RSL) とともに、世界で最も有名な耐久レースで 6 度目のクラス優勝を目指します。

このレースで、2 台の Vantage GT3 が 20 回目のクラス制覇に挑みます。Vantage GT3 は超高級パフォーマンスブランドが最も力を入れたスポーツカーと共通のメカニカルアーキテクチャを備え、Aston Martin の定評あるボンデッド・アルミニウム・シャシーと、驚異的なツインターボ 4.0 リッター V8 エンジンを搭載しています。

このクラスを常にリードする THOR チームを代表するイアン・ジェームズ（イギリス）と、ザック・ロビション（カナダ）、マティア・ドルディ（イタリア）は、2024 年の失意のレースのリベンジを果たそうとしています。このとき、Vantage GT3 27 号車は、雨の影響を受けた夜間のレースで素晴らしいパフォーマンスを見せながら、日曜日の午前中に滑りやすいコンディションでクラッシュしました。

「勝利のチャンスがあります」と、チーム代表兼ドライバーのイアン・ジェームズはいいます。「このチームなら、いつでも優勝を狙えます。Aston Martin Vantage の競争力の高さはよくわかっていますし、今シーズンはこれまで、力強いパフォーマンスを見せてきました。Le Mans では 2 倍のポイントを獲得できるため、良い結果を出すことが重要です。ル・マンに戻って、全力を尽くすつもりです」

ワークスドライバーのドルディにとって、ル・マン 24 時間レースは耐久レースの長い戦いのスタートであり、フランスのレースのデビュー戦でもあります。イタリア人のドルディは、**The Heart of Racing** でル・マン・クラシックレースに出場した後、次の週末には **Walkenhorst Motorsport** チームでニュルブルクリンク 24 時間レースに参戦します。さらに、その翌週末にはベルギーに戻り、**Comtoyou Racing** チームで **Aston Martin Vantage GT3** を駆って、マルコ・ソーレンセン（デンマーク）、ニッキー・ティーム（デンマーク）とともに **2024 年のスパ 24 時間レースのタイトルを防衛**します。

「とても楽しみです」とドルディ。「3 つすべてのレースに出場するドライバーはそうはいません。今シーズンは少しハードですが、レースはいくらやっても満足できないものなので、私にとっては完璧な状況です！」

THOR には、**Racing Spirit of Léman (RSL)** のデレク・デボア（米国）、エドゥアルド・バリチェロ（ブラジル）、**Aston Martin** のワークスドライバーであるヴァレンティン・ハッセ・クロット（フランス）の 3 人が加わり、**Aston Martin Vantage GT3** の 10 号車をドライブします。

ワークスドライバーのハッセ・クロットにとって、今年のル・マン 24 時間レースは、**2023 年に Vantage GTE でデビューを飾ったお気に入りのレースへの復帰**となります。チームメイトのデボアとバリチェロは今週末のレースがル・マンデビューとなりますが、デボアは **Road to Le Mans** サポートレースでサルト・サーキットを走った経験があります。

Aston Martin の耐久レース部門責任者のアダム・カーターはこういいます。「**Vantage** はル・マンで誇るべき歴史を刻んできました。この素晴らしいレースで、**Aston Martin** は数々のクラス優勝を成し遂げ、その数は全体の **4 分の 1 以上** になります。その理由のひとつは、**WEC** で共に戦うパートナーチームの質の高さでしょう。今年も例外ではなく、**THOR** と **RSL** の **LMGT3** クラスの **2 組の素晴らしいチーム**が、**Aston Martin** の伝統にふさわしい結果を残してくれることでしょう。彼らの健闘を祈ります。そして、**2025 年に Vantage** がル・マンの優勝記録をさらに伸ばすことを待ち望んでいます」

ぜひ、フォローしてください

2025 年ル・マン 24 時間レースのプラクティスは、**6 月 11 日水曜日の 14 : 00**（中央ヨーロッパ時間、英国夏時間より 1 時間早い）開始です。レースは **6 月 14 日土曜日の 16 : 00** スタート。すべてのプラクティスと予選セッション、そしてレースのライブ中継は **FIA WEC TV** でオンライン配信され、英語かフランス語の解説を選択できます。また、各国で選択された放送局で放送されます。

アストンマーティン・ラゴンダについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBX707に加え、同社初のハイパーカーであるValkyrieなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing Green. サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは2025年から2030年にかけて、PHEVとBEVを含むブレンドドライブレインアプローチによる内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴンダは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴンダは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

メディア問い合わせ先：

Aston Martin Lagonda
Marketing & Communications Manager-Japan
松永 悠理
yuri.matsunaga@astonmartin.com

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865
astonmartin-pr@pjbc.co.jp